

大会 1 日目 平成 28 年 7 月 5 日 (火)

開会式 13:30~14:17

(開会に先立ち、4月に発生した熊本地震で亡くなられた方の御冥福を祈り黙祷。)

- 1 開会のことば 九州協議会理事 赤星 浩一 (熊本県立八代高等学校)
- 2 会長挨拶 全国公立高等学校事務職員協会九州協議会会長 鬼塚 正文

本日、大震災を乗り越えて、開催できることを感慨深く喜びに堪えません。

九州の皆さん、参加していただき、ありがとう。

私たち、学校事務職員は、専門職として教育行政の最前線で直接教育活動を支えています。生徒たちの夢の実現のために、共に働きましょう。

今回、大会を開催するに当たり、特に「絆」や「仲間」という言葉を強く感じました。九州の仲間たち、全国の仲間たちに本当にありがたいと感じました。心を一つに、力を合わせて頑張りたいと思います。

頑張ろう熊本！負けんばい熊本！支え合おう九州協議会！そして、皆さんありがとう。

3 来賓祝辞

熊本県教育庁 教育総務局 学校人事課 審議員兼課長補佐 菅田 雅之 様

熊本地震により、死者69人、住宅被害約12万件など、甚大な被害を受けました。高等学校・特別支援学校においても、全71校中、57校が被災しました。

6月末現在、震度1以上を観測した回数が1,800回を超え、今も5千人を超える方々が避難所で生活されています。

このような中、多くの方々から継続的な御支援をいただいたことに深く感謝申し上げます。

学校教育がより発展するには、事務職員が校長の補佐役として、学校経営へ積極的に参画することが重要です。また、今回の熊本地震において、防災の面から学校の重要性が再認識されました。日頃から防災意識を持って取り組むことが求められています。

熊本市教育委員会 教職員課 課長 木櫛 謙治 様

今回の震災による被害は甚大なものでしたが、避難所となった学校の運営に御尽力いただき、感謝申し上げます。また、避難所においては、子どもたちは、自分たちにできることを考え、力を合わせて行動する頼もしい姿を見せてくれました。

これは教育の力が生み出した賜物であり、その果たすべき使命の大きさを認識しました。

今後も、子どもたちが将来に夢や希望を抱き、未来へと羽ばたくことができるよう、教育活動を支えていただきますようお願い申し上げます。

熊本県公立高等学校長会 会長 川上 修治 様

熊本地震において本県の県立学校においても多くの建物が被災しましたが、復興に向けた歩みを支えていただいているのは、学校事務職員だと言えます。避難所運営業務においては、中心的役割を担いました。おかげで5月の連休明けには全ての県立学校が再開することができ、校長会としては、児童生徒の学びの場を確保することができ安堵しているところです。

教育現場を取り巻く環境は年々変化していますが、その中で学校の教育目標の達成を目指し、全職員と地域が力を合わせて取り組むことで大きな成果がでると確信しています。

学校事務職員には今後、事務室の立場から積極的に学校運営に参画され、大きな一翼を担われることに期待します。

4 来賓紹介

5 閉会のことば 九州協議会理事 田代 典子（熊本県立湧心館高等学校）

6 来賓退席

7 表彰式

○功労者の表彰、記念品の贈呈

・永年勤続表彰該当者：41人 特別功労者表彰該当者：3人

○代表者謝辞 鹿児島県立薩摩中央高等学校 事務長 上野 佳子 様

8 研究発表者紹介

○鹿児島県、長崎県、宮崎県、沖縄県

9 九州協議会副会長 長崎県協会長 吉田様から熊本地震への募金のお願い
チャリティー上演会（映画：「うつくしいひと」）の紹介

研究発表 14:40～16:40

① 鹿児島県 「事務室を出て気づくこと ～施設・備品・生徒, e t c. ～」

鹿児島県公立学校事務職員協会 熊毛支部

発表者 鹿児島県立武岡丘台養護学校 事務次長 川崎 かつ子

鹿児島県立加世田高等学校 事務長 有村 光代

鹿児島県立加世田常潤高等学校 専門員 上野 和美

鹿児島県立屋久島高等学校 事務次長 塩屋 孝子

司会 熊本県立熊本かがやきの森支援学校 事務長 重松 憲明

助言者 熊本県立天草高等学校 主任事務長 坂本 秀幸

<概略>

デスクワークに追われがちな日々の中で事務室から1歩を踏み出すと、今現在の学校の問題点に気づくことができる。その問題点が達成された姿を想像し、それに向けた解決策を考えることが仕事の中で新たな意識改革を図ることにつながる。教員が気づかない視点で自校の教育を俯瞰することは、開かれた学校づくりに貢献することにもなる。このことを認識することで、学校で唯一の行政職員としての役割を果たすことができる。様々な事例を見つけ達成された姿を模索し、解決策・問題点を探り考えてみたことをまとめた。

<質疑応答>

質問者	熊本県 熊本県立熊本西高等学校 上妻 公美
質問内容	「チャレンジ研修」とはどのようなものか。また、定期的に行われているのか。
回答	行政職員、市町村役場職員が対象の研修で概ね2日間程度にわたって行われる。平成23年度くらいから学校事務職員も参加が可能になった。グループになっての事例研修形式で、内容はコミュニケーション、業務改善、タイムマネジメント等。年に50講座ほど実施されている。

質問者	熊本県 熊本県立八代高等学校 玉田 雅子
質問内容	事例3について、PDCAサイクルを途切れさせないように引き継ぎ方策を取っているか。取っているならば、どのような形で引き継いでいるか。
回答	実態把握、事実確認を行い、担当が変わっても備品の確認・管理を行うことを目標としている。そのため、夏季休業中に備品を確認し、要・不要を明確にする。前年度末に物品の確認（おそらく紙ベース）を行い、人事異動時の引き継ぎを十分に行うことが次期への課題となっている。

質問者	熊本県 熊本県立熊本かがやきの森支援学校 重松 憲明
質問内容	熊本県では、「借用願」という文書のやり取りを経て借用が可能になる。鹿児島県は（手続き面で）借用しやすい環境なのか。
回答	県立学校同士では借用願が必要。 近隣の小中学校や市町村教育委員会の備品であれば、借用願は無くても借用が可能だった。これが必要だとなった時に、その備品を持っている所属はどこなのかを把握しておくことが大事であると思う。

助言

チャレンジ研修の中で、先読み行動、アサーション・トレーニングという新しい問題解決の方法が出てきた。それを事務室から1歩出て、具体的な事例に当てはめて、日々解決に向けて一生懸命しているところに頭が下がる。なかでも、アサーション・トレーニングが一番興味深い。

アサーション・トレーニングとは、自分も相手も尊重したうえで、率直に自分の要望を伝えることである。これは、生徒・職員を問わずに、対人関係の中で最も重視する事柄ではないかと思う。次の発表では、アサーション・トレーニングの実践方法や成果について取り上げて、私たち事務職員に教えていただきたい。

講評

事務職員は仕事柄、事務室の狭い空間で1日の大半を過ごすことも多いかと思う。そういう中で、積極的に1歩外へ出て施設や備品を点検する。あるいは、職員や生徒についての情報を得て、各々が本来あるべき姿を目指して、学校教育の理想的な実現に向けた取り組みを実践されたことには、敬意を表したい。

色々な研究手法を取り入れて、身の回りにある私たち事務職員が陥りやすいような、心がけなければいけないような事例が、たくさん出てきた。新たな試みに躊躇して、前年を踏襲して無難に収めることが多いのは、皆に共通していえることだと思う。しかし、その中であって鹿児島県の「より良い教育のために、目的意識を持って果敢に事務職員にできることを模索する姿勢」に学ぶことが多かった。私たち事務職員へ1歩を踏み出させてくれる、良き示唆を与えてくれたと思う。

- ② 長崎県 「施設のトラブル！ 今、私たちが対応・決断すべき事
 ー施設担当者から若手職員・後輩への思いを込めたメッセージ」
 長崎県公立学校事務職員協会長崎・西彼支部研究グループ
- 発表者 長崎市立長崎商業高等学校 主任主事 山口 義郎
 長崎県立大村特別支援学校 主任主事 鶴田 和文
 長崎県立長崎明誠高等学校 主任主事 山口 浩平
- 司会 熊本県立天草高等学校 主任事務長 坂本 秀幸
- 助言者 熊本県立熊本かがやきの森支援学校 事務長 重松 憲明

<概略>

平成24年6月に出された通知により、予定価格が3万円を超えるすべての契約について一者見積による随意契約が原則禁止となった。これまでは、軽易な小修繕や物品修理は短期間での対応が可能であったが、制度改正以降は煩雑な手続きや期間を要することになり、担当者にはある程度の経験やスキルが要求されることになった。これを受けて、実際の修繕事例について①当初対応の重要性、②危険性と経済性のバランス、③県への予算要求を含めた検討、④根本的な解決であるか、再発はないか、⑤本当にその方法で良かったか、⑥本事例を生かす為に、の6つの視点から検証を行った。

<質疑応答>

質問者	熊本県 熊本県立熊本高等学校 中尾 雄策
質問内容	熊本県は修繕・物品購入ともに10万円だが、長崎県は物品購入も3万円で見積合わせをするのか。また、原則禁止ということなので、その例外とはどのようなときか。
回答	長崎県も以前は、修繕・物品購入ともに30万円であったが、制度改正以降は、両方とも3万円を超えると見積合わせが必要である。例外としては、漏水で水がじゃぶじゃぶとあふれ出しているような緊急時には1者で可能。ただし、どういう理由で1者と契約したのかを説明できる資料を、準備しておく必要がある。

助言

実際に行った修繕の具体例をもとに(S)PDCAサイクルのCまで長崎県では進んでいる。今後の実務の中でぜひActionを実践に移してもらいたい。

また、施設の維持・管理において、不具合の修理を優先し予防保全は後回しになりがちである。しかし、今ある施設を将来にわたって有効に活用するには、予防保全をすることで施設は健康な状態を長い間維持でき、ひいてはトータルコストの削減につながる。そのためには常日頃から校内・校外の点検を行い、異常箇所を敏感にとらえることが大事になってくる。さらに、緊急時に対応するためには、すぐに対応してくれ、かつ技術的にも信頼できる取引先をつくっておくことが望ましい。

今回は、トラブル発生後の事例をしっかりとまとめていたので、今後は未然にトラブルを防止する方策を研究してみてはどうか。

講評

まずは、参加者とのやり取りを交えた、今までに例をみない素晴らしい発表であったことに敬意を表したい。さて、長崎県では単独随意契約の条件が、1件の予定価格が30万円から3万円に引き下げられたことで、大きな変化があったと思う。その範囲に小修繕は多数含まれるため厳しいと感じる。

平成27年12月、中教審から「チームとしての学校の在り方と今後の改善策について」の答申が出された。その中で事務体制の充実が明示されており、事務職員の職務内容が8項目ほど列記してあるが、「施設・設備の管理」は「予算、決算等の会計管理」に次いで2番目に挙げられており、とても重要な職務であると再認識した。

発表時間の関係で削除された、34ページにある事例Cは、初期対応から関係者の調整までの見事な事例である。もし自分がこの状況に遭遇したときに、どのような対応ができるかを、各学校に戻られてから検討されるのもいいと思う。

大会 2 日目 平成 28 年 7 月 6 日 (水)

研究発表 10:00～12:00

③ 宮崎県 「とれてますか？職員とのコミュニケーション」～失敗からの事前策～

宮崎県高等学校教育研究会事務部会宮崎南地区研究発表実行委員会

発表者 宮崎県立赤江まつばら支援学校 事務主査 田中 美和子

宮崎県立赤江まつばら支援学校 事務主査 渡司 千穂子

司会 熊本県立人吉高等学校 主任事務長 宮原 和喜

助言者 熊本県立松橋支援学校 事務長 吉澤 美保子

<概略>

多忙な職場の中で、職員が書類の提出期限を守らなかったり、間違った書類を提出したりすると、その都度対応に時間がかかってしまう。職員とのトラブル発生の原因が事務的研修を受ける機会がないために説明を理解しづらいのではないかと考え「職員とのコミュニケーション」についての研究をした。今までどんなトラブルがあったか、どんな対応をしたかをアンケートを実施し今後の事務処理に活かすための事前策を考えた。

<質疑応答>

質問者	熊本県 熊本県立ひのくに高等支援学校 西國 詩織
質問内容	<ul style="list-style-type: none">・宮崎県の ICT 化の具体的な例はどのようなものがあるか。・教員への事務処理マニュアルを他校へ共有しているか。
回答	<ul style="list-style-type: none">・県庁 LAN、校内 LAN、財務会計を、パソコンで行っている。・地区で研究、県の研究会で共有を提案している。手引き委員会で通知、様式等と共に共有している。

質問者	熊本県 熊本県立熊本工業高校 葉山 真美
質問内容	<ul style="list-style-type: none">・事前策を実践して職員の意識、対応の変化はあるか。・「信頼できる事務職員、入りやすい事務室」心がけていること、事務室全体で取り組んでいることは？
回答	<ul style="list-style-type: none">・1 回 2 回では先生には理解はしにくい。・事務職員から声をかける、挨拶、雑談を行っている。だが、忙しい時もできるだけ笑顔を見せるようにしている。

質問者	熊本県 熊本県立苓洋高等学校 片山 博史
質問内容	<ul style="list-style-type: none">・熊本県では、平成 25 年度から事務の採用形態が変化した。宮崎県は以前から一般行政、知事部局等への異動もある。事務室の状況はどのようなになっているか。

回答	<ul style="list-style-type: none"> ・一般行政採用の職員が学校内で半数を超える。知事部局出身職員ばかりの学校もある。引き継ぎを行っていても実際に業務を行って見ないと分からない。学校の特殊性、ベテランの経験を伝えていくことが難しい。 <p>宮崎県 佐々木会長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の採用から学校事務希望職員を採用していく。
----	--

質問者	熊本県 熊本県立球磨工業高校 山口 翔吾
質問内容	<ul style="list-style-type: none"> ・事例1：扶養手当について <p>熊本県では年に一度現況調査を行っているが「被扶養者申告書」は現況調査と同じであるか。</p>
回答	<ul style="list-style-type: none"> ・申告書は年度初めに行っている。各学校単位では行っていたが今までは諸手当の確認は行っていなかった。27年に手当を確認するようにと通知が出された。

助言

宮崎県の発表は、日常的に学校職員との間で起こったトラブルの原因に対してどのような対応をし、解決したかを具体的に報告し、また、事前策としても反省してあるところが、とても好感を持たれた。宮崎県内の学校事務職員に職員との間で起こった「コミュニケーションにかかわる業務の困りごと」というアンケートを実施されて、回答の中で特に多かったものが、給与・旅費に関するものだった。おそらくこれはどの県、どこの学校でも共通しているのではないだろうか。宮崎県のように事前策として、制度や事務手続きについて理解してもらうことの大切さから、事務職員も常に資質向上に努める必要があるということで、例えば配布文書を見やすく、わかりやすいものにする工夫がなされており、とても丁寧な対応をしている。事務室がどのような仕事をしているか、先生方は知らないで、事務室からの情報発信は重要である。しかし事務室からの発信だけでなく、事務職員も学校内の行事等に積極的に参加することが大切である。行事のみならず、校内を回ると先生方の大変さ、いろいろなことが発見できる。お互いを理解しようとするところから、職員とコミュニケーションがはじまるのではないか。

④ 沖縄県 「離島への異動希望者がいない！！～どうする離島地区～」

沖縄県立学校事務職員協会八重山支部

発表者 沖縄県立八重山特別支援学校 主任 宮里 千晴
 沖縄県立八重山農林高等学校 事務主事 金城 裕也
 沖縄県立八重山商工高等学校 事務主事 佐喜眞 幹史

司会 熊本県立松橋支援学校 事務長 吉澤 美保子
 助言者 熊本県立人吉高等学校 主任事務長 宮原 和喜

<概略>

沖縄県には、石垣島、宮古島及び久米島の三つの離島に高等学校が8校、特別支援学校が2校設置されているが、各校で抱える共通の問題として人材不足があげられている。離島地区は新規採用事務職員が主に配置されており、そのほとんどが経験年数の浅い事務職員で構成されている。これは本島からの異動希望者が少ない・いないためであると思われる。こうした現状を打破するために「離島勤務の魅力」を発信していく。

<質疑応答>

質問者	長崎県 長崎県立長崎西高等学校 山口 克治
質問内容	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎県の人事異動方針では、最低1回は離島勤務を行うとしているが、沖縄県にはルールはないのか。 ・異動先の学校から異動者への配慮等はどうなっているか。引越しまニュアル等はあるのか。
回答	<ul style="list-style-type: none"> ・離島勤務回数は、「2回、1回、なし」など実情はまちまちである。 ・引越しまニュアル等は存在しない。今回の研究発表で情報発信の重要性に気付いたので、今後は情報を発信していこうと思う。

質問者	沖縄県 沖縄県立読谷高等学校 高江洲 久枝
質問内容	<ul style="list-style-type: none"> ・20年前から実情が変わっていない。 ・九州地区には離島のある県がある。沖縄県は上手くいっていないが、人事交流等でバランスよく主査級が配置されているなど、明確なルール等がある事例があれば教えていただきたい。
回答	<p>(鹿児島県)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育を平等に」で採用時に説明があり、納得したうえで異動がある。年齢構成のバランスもとれている。 ・沖縄県は本島との研修の差はあるのか、年齢構成等はどうなっているのか。
回答	(沖縄県)

	<ul style="list-style-type: none"> ・普通校2～3人、専門校3～4人、特別支援学校2人、事務主事（20～30代）7～8割、 ・各担当、年末調整等大きな業務時に研修を行う。
回答	<p>（長崎県）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回は必ず離島で勤務する。複数人配置の学校はバランス良く配置されている。

助言

離島希望者がいない、なぜか。離島へのイメージが悪い。アンケートの中に「観光ならいいが住むのは嫌」とあった。それが最初の印象かもしれない。「離島を敬遠するのは、仕事よりも生活の不安」とあるが、離島経験者の実に94%の方が「経験してよかった」と回答している。「情報発信不足を強く感じた」とも述べられている。今後もこのような機会を捉えて、協会を挙げて離島の良さを発信するべきである。今回の発表で「相談する相手がおらず解決できない」「事務主査、主任に経験していただき、離島地区事務職員の環境改善に取り組んでいただきたい」とあったが「事務長の姿」が見えない。沖縄の事務長先生はこのことについて「事務長だからと言って、すべてを知っている訳ではありませんが、問題点が出てくれば、その都度、事務職員と一緒にになって、解決策を導き出すようにしています。そのことが一番大切だと思います」と話されていた。どうぞ、我々事務長を使ってください。「今後は、今までのような受け身の姿勢ではなく、これから積極的に離島から情報発信し、積極的に行動を起こすことが、本島と離島との距離を縮める第一歩だと思います。そのことを考えると、今回の発表は今まで無かった試みであり、本島と離島の距離を縮めるきっかけになる、大事な発表だと思います」とも沖縄の事務長先生が言われていた。

特別講演 13:30～14:37

演題 「すばらしい音楽との出会い～美しい音楽をあなたに～」

講演者 出田 敬三 様（平成音楽大学学長・作曲家・指揮者）

講演会は寝ている人が多いので、今回は半分以上「音」だけで講演会を行う。

4, 5歳のころから音楽一筋でやっている。何事にもきっかけ、出会いがあるが私にとってはウィーン少年合唱団があり、「のぼら」という曲に出会って音楽を始めた。15歳で東京の、25歳でウィーンの音楽学校へ進む。

人間の原点は「歌」である。美しい声を出すには豊かな心、感性、環境が大事である。私は「インプロビゼーションアレンジ」で演奏するので二度と同じ演奏ができません。その場での即興での演奏です。

人間が生まれて初めて聞く音は母親の声、子守歌である。母の子守歌には違いがある。日本の子守歌はとても単調である。対してヨーロッパの子守歌は音が明るいため、子供の寝顔も明るくなっている。

教育にはちょっとした細かなサポート、愛情が大事です。感性、魅力、努力が必要です。子供のいろんな個性を見つけるのが高校であり、その個性を伸ばすのが大学であると思います。

常に先に行かなければならない。後ろにサボってはいけません。

主な演奏及び合唱内容

- ・ヴェルナー「野ばら」 独唱
- ・「七夕さま」 合唱
- ・「海（海は広いな大きいな）」 合唱
- ・シューベルトの子守歌 独唱
- ・民謡「おてもやん」 三味線
- ・「ハイヤ節」 三味線 ※みんなで手拍子・掛声 ※民謡は海外でも評価を受けている。
- ・イタリア カンツォーネ「オー・ソレ・ミオ」 独唱（テノール）
- ・チナミカ「どんな夢」合唱（おひさまさんさんさん・・・）
- ・ピノキオ「星に願いを」 ハンドフルート
- ・天空の城ラピュタ「君をのせて」 ハンドフルート
- ・舟木一夫「高校三年生」 合唱
- ・山本リンダ「こまっちゃうな」 合唱
- ・森昌子「せんせい」 合唱 ※みんなで振付
- ・島津亜矢「おもいで宝箱」 ※みんなで合唱

（お礼のことば） 九州協議会会長 鬼塚 正文（熊本県立熊本工業高等学校）
（花束贈呈）

総会 14:50～15:30

- 1 開会のことば 九州協議会理事 濱田 敏彦 (熊本県立水俣高等学校)

- 2 会長挨拶 九州協議会会長 鬼塚 正文 (熊本県立熊本工業高等学校)
熊本地震の概要の説明

- 3 議長団選出
事務局に一任を承認。
嘉悦 良吉事務局長から熊本県立小川工業高等学校 藤本 洋美、
熊本県立熊本高等学校 中尾 雄策を指名し承認。
記録に熊本県立第一高等学校 児島 愛理、熊本県立八代高等学校 吉田 彩夏を指名。

- 4 議事
第1号議案 平成27年度会務報告：嘉悦 良吉事務局長 → 承認。
第2号議案 平成27年度決算及び監査報告 → 承認。
決算報告：会計 豊永 祐樹理事
監査報告：監事(長崎県立鹿町工業高等学校) 富永 宏美 様 → 承認。
第3号議案 役員改選(案)：鬼塚 正文会長 → 承認。
第4号議案 平成28年度事業計画(案)：嘉悦 良吉事務局長 → 承認。
第5号議案 平成28年度予算(案)：会計 豊永 祐樹理事 → 承認。
第6号議案 次期開催地(案)：嘉悦 良吉事務局長 → 承認。
第7号議案 その他 → 提案なし。

- 5 議長団降壇

- 6 新役員挨拶 次回開催県 会長：長崎県立佐世保南高等学校 吉田 信二 様
挨拶の前に実行委員会に対し、お礼と拍手をいただいた。
開催時期：平成29年6月7日(水)、8日(木)、9日(金)
開催地：長崎県佐世保市
特別講演：高田 明 様(前ジャパネットたかた社長)
その他、佐世保市の紹介。

- 7 閉会のことば 九州協議会理事 嘉悦 良吉 (熊本県立第二高等学校)